

ほん・本・ごほん 1



東京都立多摩図書館

〈どうぶつ だいしゅうこう〉

■ いぬ	3
■ ねこ	5
■ さる	7
■ ねずみ	9
■ くま	11
■ うし	13
■ らいおん	15
■ そう	17
■ とり	19
■ さかな	21
■ かえる	23
■ おかしなペット	25

〈ふしぎなせかい〉

● つき	27
● ほし	29
● 木	31
● きょうりゅう	33
● ときをこえて	35
● おばけ	37
● こわい本	39
● へんしん	41
● いろ	43
● かず	45
● ことばあそび	47
● 詩	49

そのほかの本	51
さくいん	56
先生方や子供の読書に関わる方へ	58



はじめに



あなたは、どんな本が好きですか？
 どんな本をよみたいですか？
 ねこの本？ おばけの本？ それともきょうりゅうの本？
 この小さな本には、テーマごとに、本が6さつずつ、しょうかいされています。
 あなたがよみたいテーマがあったら、そこからおもしろいほんをさがしてみてください。

テーマはぜんぶで 24 あります。

- 🌱 印は、おおよそのめやすです。
- 🌱 は、小学生ならだれでもたのしめます。
- 🌱🌱 は、3年生くらいからたのしめます。
- 🌱🌱🌱 は、5年生くらいからたのしめます。

ちしきのほん は、物語ではなく、実際にあったことをもとにして書いてある本です。

よみたいと思った本が、学校にないときには、近くの公共図書館でかりてください。

どうぞ、この小さな本をみちあんないに、おもしろい本、楽しい本とであってください。

いぬ

1 どうながのプレッツェル

マーグレット・レイ 文 H.A.レイ 絵
わたなべしげお 訳
福音館書店 978-4-8340-0731-2

5月のあるあさ、5ひきのダックスフントが、生まれました。はじめのうちは、どの子犬もそっくりでした。でも1びきだけ、どうたいがずんずん、ずんずんのびて、せかいー、どうのながい犬になりました。



2 しろいいぬ? ぐろいいぬ?

M. B. クック 作 池田龍雄 絵 光吉夏弥 訳
大日本図書 978-4-477-16761-9

白い子犬のワグルズは、ほねでも、くつでも、なんでもくわえるのが大好きです。ある日、デパートで、うりもののぼうしをくわえたら、「どろぼう」とどなられました。

3 まいごの小犬タップス

ミラ・ローベ 作 塩谷太郎 訳
学習研究社

フレイディと妹のヘーディは、公園で、黒い毛糸のかたまりのような小さな犬を見つけました。二人は、名前をタップスとつけて、家に連れて帰り、ミルクをやって、かごの中へねかせました。でも、かいぬしが子犬をさがしているかもしれません。



4 名犬ラッシー

エリック・ナイト 作 岩淵慶造 絵 飯島淳秀 訳
講談社 978-4-06-148411-5

ラッシーは、美しく、頭のよいコリー犬。愛する飼い主からはなれて、遠いスコットランドに買われて行きました。しかし犬舎をにげだすと、遠いわが家をめざしてひたすら走りだしました。激流にまきこまれ、野犬がりにつかまり、それでも旅を続けます。



まぼろしの小さい犬



5 まぼろしの小さい犬

フィリパ・ビアス 作 猪熊葉子 訳
岩波書店 978-4-00-115506-8

ベンは、おじいさんから「今度の誕生日に犬をあげよう」と言われました。でもプレゼントは、毛糸でしゅうした犬の絵でした。ロンドンで、犬が飼えないのはわかっていても、ベンはあきらめることができず、犬のことばかり考えるようになりました。

ちしきのほん

6 こいぬがうまれるよ

ジョアンナ・コール 文
ジェローム・ウェクスラー 写真
つばいいくみ 訳
福音館書店 978-4-8340-0912-5

おとなりのいえの犬が、赤ちゃんを生みました。赤ちゃんはふくろに入っで生まれてきました。おかあさんが子犬をなめて、外にだしてやります。目も耳もとじています。子犬はおっぱいをのんで、ねむるだけ。はやく大きくならないかなあ。



7 あくたれラルフ

ジャック・ガントス 作
ニコール・ルーベル 絵 いしいももこ 訳
童話館出版 978-4-924938-26-7

ラルフはセイラのネコ。セイラのパーティーで ぜんぶのクッキーを一口ずつかじるし、おとうさんのパイプでしゃぼんだまをふくし、とんでもないネコです。かぞくで、サーカスにいったとき、あんまりいたずらしたので、ラルフは とうとう、おきざりにされてしまいます。



8 ふゆねこさん

ハワード・ノッツ 作・絵 まつおかきょうこ 訳
偕成社 978-4-03-425030-3

はいいろのネコには、はじめてのふゆ。ゆきがふって、どんどんさむくなっていきます。こどもたちが「ふゆねこさん」とよびました。そして、まいにち、のこりものをくれ、「うちにおいで!」とよびます。「うちって、なんだろう?」ネコは、かんがえました。



9 こいぬとこねこは ゆかいななかま

なかよしのふたりがどんなおもしろいことをしたか

ヨセフ・チャベック 文・絵
いぬいとみこ、井出弘子 訳 童心社

子犬と子ネコが仲良くくらしていました。ある日、うちがよごれたのでそうじをしました。はじめに、子ネコが子犬をブラシのようにつかんで、ゆかをゴシゴシ。つぎに、子犬が子ネコをつかんで、ぬれたゆかをふきました。ほーら、とってもきれいになった。



10 ルドルフと イッパイアッテナ

斉藤洋 作 杉浦範茂 絵 講談社
978-4-06-133505-9

黒ネコのルドルフは、大きなトラネコにいました。名前を聞くと「イッパイアッテナ」というのです。トラ、ボス、デカ、ドロ…。いろんな人がいろんなよび方をするので、名前がたくさんあるのです。ルドルフは、イッパイアッテナからノラネコの生き方を教わりました。



11 山のトムさん

石井桃子 作 深沢紅子 画 福音館書店

山の家はネズミだらけ。そこで子ネコのトムをもらってきました。大きくなると、ネズミとりのとっくんが始まりました。まず家の人がかエルを放ってやると、トムが飛びついてつかまえるのです。トムはたちまちカエルとりの名人になりました。けれどもネズミをとろうとはしません。

ちしきのほん

12 ノラネコの研究

伊澤雅子 文 平出衛 絵
福音館書店 978-4-8340-0196-9

わたしはノラネコを研究中。今はナオスケのあとを一日中つけて、観察しています。朝、目をさましたナオスケはゆっくり毛づくろい。それから道やへいの上を歩いていきます。ネコがいれば、通りすぎるのを待ち、穴をほってフンをする。ネコ社会にもルールがいろいろあります。



さる

13 ひとまねこざる

H.A.レイ文・絵 光吉夏弥 訳 岩波書店
978-4-00-115145-9

子ザルのじょーじは、どうぶつえんからにげだしました。バスのやねにのって、町にでると、レストランからいいにおいがします。うらぐちから入ると、なべがありました。中にはスパゲッティがいっぱい。じょーじはたべて、たべて、スパゲッティが、からだじゅうにまきついてしまいました。

大型絵本 ひとまねこざる



H.A.レイ文・絵 光吉夏弥 訳
岩波書店

さるのオズワルド

エゴン・マチーセン 作 松岡享子 訳



14 さるのオズワルド

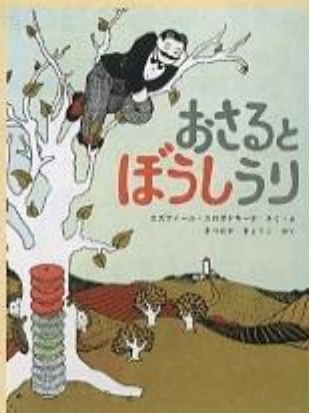
エゴン・マチーセン 作 松岡享子 訳
こくま社 978-4-7721-0146-2

あるところに、ツルのオズワルドがいました。おっとまちがい、サルのオズワルドです。おなかぽこぽこになったので、おっとまちがい、ぺこぺこになったので、リンゴを食べました。そこへなかまのサルがおおぜい、ふってきて、おっとまちがい、やってきて…。

15 おさととぼうしうり

エズフィール・スロポドキーナ 作・絵
まつおかきょうこ 訳 福音館書店
978-4-8340-0979-8

あたまの上にたくさんのぼうしをのせてうりあるく、ぼうしうりがいました。ある日、あるきつかれて、木によりかかって、ねてしまいました。目をさますと、ぼうしがありません。上をみると、えだにはたくさんのおサルがいて、みんな、ぼうしをかぶっていました。



16 アーサーのくまちゃん

リリアン・ホーバン 作 木島始 訳 文化出版局

アーサーは、いもうとのバイオレットとおもちゃをうりだすことにしました。ふるいおもちゃをならべて、友だちにうるのです。フラフープ、ヨーヨー、すなのはこ、トランプ、いしころ…。アーサーは、だいじなおもちゃのくまちゃんをうろうか、まよっています。

アーサーのくまちゃん

リリアン・ホーバン 作



木島 始 訳

17 グリーン・ノウのお客さま

ルーシー・M・ボストン 作
ピーター・ボストン 絵 亀井俊介 訳
評論社 978-4-566-01264-6



ピン少年が森でひるねから目覚めると、目の前に、ゴリラのハンノーがいました。動物園からにげだしたのです。ハンノーは、竹を折ってむしゃむしゃと食べ、大きな手で地面から野生にんじんを引きぬきました。ピンはこの気高く力強いゴリラを守ろうと決心します。

ちしきのほん

18 ゴリラに会いに行こう

チサトのゴリラ日和

阿部ちさと 文・絵
国土社 978-4-337-31003-2

わたしは、ゴリラが大好きな画家。ある日、イギリスのハウレット動物園で、ゴリラが飼育係にじやれて笑っているビデオを見てびっくりしました。さっそく行ってみると、ゴリラの家族がのびのびくらしています。野生の状態に近づける工夫をしているので、こんなに幸せなのです。



ねずみ

19 ぐりとぐら

なかがわりえこ 作 おおむらゆりこ 絵
福音館書店 978-4-8340-0082-5

ノネズミのぐりとぐらは、森のおくへでかけました。どんぐりやくりをひろいながらあるいていくと、みちのまん中にとても大きなたまごがおちていました。

「やあ、これで、あさからばんまでたべても、まだのこるくらい大きなかすてらができるね！」



20 ぼく字がかけよ 教室ねずみジョンのお話

ランデル 作 かわいともこ 訳
偕成社 978-4-03-431100-4

ネズミのジョンは、1年生のきょうしつのとだなに、こっそりすんでいます。

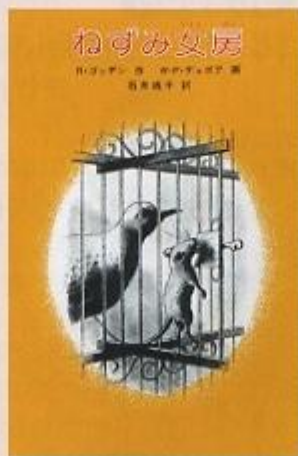
ある日 とつぜん、せいとたちが「ジョン、ジョン」「ジョンは、ここにいます」といったので、びっくりしました。ほんとうは、せいとたちが、こくばんの字をよんでいただけなのです。



21 ねずみ女房

R・ゴッデン 作 W・P・デュボア 画 石井桃子 訳
福音館書店 978-4-8340-0540-0

ある家にネズミ夫婦が住んでいました。めすネズミは、子ネズミやおすネズミの世話で、いそがしい毎日。ある日、キジバトがとらえられて、やってきました。ハトは、森や丘、空を飛ぶことなど、めすネズミの知らないことを話してくれました。



22 くらやみ城の冒険

マージェリー・シャープ 作 ガース・ウィリアムズ 絵
渡辺茂男 訳 岩波書店 978-4-00-115251-7

囚人友の会のネズミたちは、くらやみ城にとらわれた詩人を救い出すことにしました。その役を引き受けたのは、銀のネックレスをかけた美しい白ネズミ、ミス・ビアンカ。ビアンカは2匹のネズミとともに城に潜入します。囚人は地下牢に閉じこめられ、おまけにそこにはこわいネコがいました。



23 冒険者たち ガンバと十五ひきの仲間

斎藤惇夫 作 荻内正幸 画
岩波書店 978-4-00-110527-8

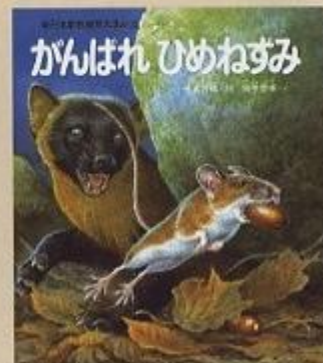
港ではネズミたちの大えん会。そこへ血だらけのネズミが、「夢見が島で仲間がイタチ一族にころされている」と助けを求めにきました。ガンバは、「助けに行こう」とよびかけますが、こたえるネズミなどいません。ところがよく朝、夢見が島に向かう船には、ガンバと15ひきのネズミが乗っていました。

ちしきのほん

24 がんばれひめねずみ

今泉吉晴 文 田中豊美 絵
新日本出版社 978-4-406-01065-8

木の上のとりすばこに、ヒメネズミが赤ちゃんをうみました。ある日、大きなけものテンが、すばこをおそいました。赤ちゃんたちは、空中をとんで、にげます。1ひきの子ネズミは、じめんをはして、いわのすきまに入りました。ここはくらすのによさそう。おちばをはこんできて、ねどこをつくりました。



25 サリーのこけももつみ

ロバート・マックロスキー 文・絵
石井桃子 訳
岩波書店 978-4-00-110590-2

ある日、サリーはおかあさんと山へこけももつみにいきました。こけももをつんで、ばけつにいれると、「ポリン・ポロン・ポロン！」と音がします。山には、小さなクマもおかあさんグマと、こけももをたべにきていました。さむいふゆがくるので、おなかをいっぱいにするのです。



26 ヘムロック山のくま

アリス・デルグレイシュ 作 太田大八 画
松岡享子、藤森和子 共訳 福音館書店

ある冬の日、ジョナサンはエマおばさんの家に大きなベを借りに行くことになりました。おばさんの家は、ヘムロック山のむこうです。ヘムロック山には、クマがいるといわれています。ジョナサンは「ヘムロック山にはクマなんかいない」と歌いながら、山をこえていきました。

27 くまの子ウーフ

神沢利子 作 井上洋介 絵
ポプラ社 978-4-591-06947-9

ウーフは小川のメダカを見たら、魚になりました。魚になるなら、昼でも夜でもまばたきをしてはいけないうたはいいました。ウーフは、いっしょうけんめい目を開けたままにしましたが、100で、まばたきしてしまいました。



28 おおきくなりすぎたくま

リンド・ワード 文・画 渡辺茂男 訳 ほるぷ出版
978-4-593-56123-0

ジョニーくんは、森で子グマに出会い、つれて帰ってきました。子グマはなんでも食べて、たいへん大きくなり、しだいに村のやっかいものになりました。しかたなく、ジョニーくんは、とおい森にくまをおいてきました。けれども次の朝には、帰ってきてしまうのです。



29 クマのプーさん プー横丁にたった家

A. A. ミルン 作 石井桃子 訳 岩波書店
978-4-00-110801-9

ある日、プーは、カシの木のとっぺんにミツバチの巣を見つけました。プーは、ハチミツをとろうと、青い風船にぶらさがって、巣に近づきました。風船が空で、自分が黒い雲に見えるように、雲の歌を歌いながらね。でもハチたちは、うたがってブンブンいっています。

ちしきのほん

30 クマよ

星野道夫 文・写真 福音館書店
978-4-8340-1638-3

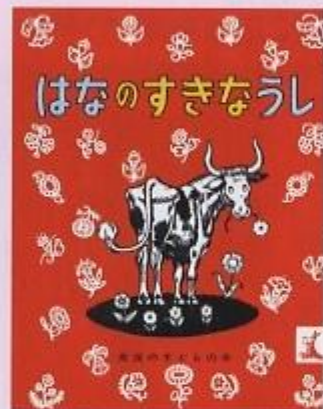
アラスカの見わたすかぎりの原野に、ぼつんとクマの親子がいます。クマは、話しかけるように、だきしめるように、子グマと遊びます。夏には、川をさかのぼってきたサケをつかまえて食べ、秋には、ブルーベリーやクランベリーをむさぼります。



31 くいしんぼうのはなこさん

いしいももこ 文 なかたにちよこ 絵 福音館書店
978-4-8340-0047-4

はるがくると、子ウシのはなこさんは、ぼくじょうにきました。たくさんの子ウシがいます。子ウシたちは、ちゃんばらっこをして、いちばんつよいはなこさんを女王にしました。はなこさんは、いつもいばっていて、水をのむのも、日かげで休むのもいちばんです。



32 はなのすきなうし

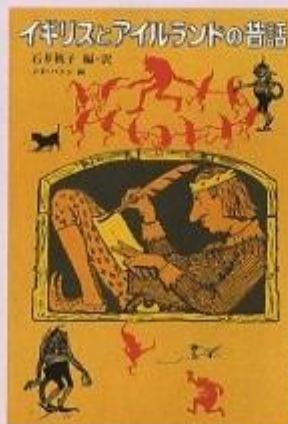
マンロー・リーフ お話 ロバート・ローソン 絵
光吉夏弥訳 岩波書店 978-4-00-115111-4

スペインにふえるじなんどという子ウシがいました。ほかの子ウシはとんだり、はねたりしてくらしていましたが、ふえるじなんどは、しずかに花のにおいをかいでいるのがすきでした。ところがある日、ハチにさされて、おおあばれして…。

33 ノロウェイの黒ウシ 「イギリスとアイルランドの昔話」から

石井桃子 編・訳 J・D・バトン 画 福音館書店
978-4-8340-0860-9

むかし、ノロウェイの黒ウシと結婚しても良いと言ったむすめがいました。すると、そう話してから3日目の朝、ノロウェイの黒ウシがあらわれ、結婚を申し込みました。むすめはウシの背に乗り、ウシの耳から出るごちそうを食べて、森やあれ野をこえていきました。



34 和太郎さんと牛

「ごんぎつね」から

新美南吉 作 岩波書店 978-4-00-114098-9

和太郎さんの牛は、和太郎さんがお酒を飲んでよっぱらっても、いつも一人で家まで連れて帰ってくれました。ある日、酒だるを運んでいると、たるがこわれて、酒のおりがこぼれました。和太郎さんは、世話になっている牛に腹いっぱい酒のおりを飲ませてやりました。

ごんぎつね



小さい牛追い

マリー・ハムズン 作
石井桃子 訳



35 小さい牛追い

マリー・ハムズン 作 石井桃子 訳
岩波書店 978-4-00-114134-4

ノルウェーの小さな農場に住むオーラとエイナルは、今年初めて牛追いになります。牛たちを森へ連れて行き、たっぷり草を食べさせ、夕方に連れて帰ってくるのです。ナップザックにはお弁当、牛の鈴の音を聞きながら、森へ出かけます。

ちしきのほん 36 ぼくじょうにきてね

星川ひろ子、星川治雄 写真・文 ポプラ社 978-4-591-08515-8

わたしのいえは、ぼくじょう。ウシが、たくさんいるよ。まいにち2かい、めウシのちしきぼりをするの。きかいで、しぼるんだよ。ぎゅうにゅうは、のうきょうのおじさんがあつめにくるんだ。ウシってぎゅうにゅうを出すために、草をたくさんたべて、水をすこーくのむんだ。

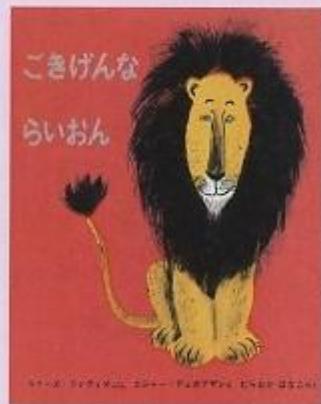


らいおん

37 ジオジオのかんむり

岸田妙子 作 中谷千代子 絵 福音館書店
978-4-8340-0714-5

むかし、ジオジオは、いちばんつよいライオンでした。いまでは年をとって、はなしあいてがほしくなりました。そこへ、はいいろのとりがきて、たまごを、ヘビやヒョウにとられてしまったといいました。ジオジオは、じふんのかんむりの中に、たまごをうんだらいいとおもいつきました。



38 こきげんならいおん

ルイズ・ファティオ 文
ロジャー・デュボアザン 絵 むらおかはなこ 訳
福音館書店 978-4-8340-0021-4

フランスのどうぶつえんにいつもこきげんなライオンがいました。まいにち、町の人たちが、ライオンにこえをかけます。あるあさ、ししくがかりがライオンのいえのとをしめわすれました。こきげんなライオンは、「きょうはおかえしに、ぼくのほうから町の人たちにあいに出かけよう」とかながえました。

39 らいおんみどりの日ようび

中川李枝子 作 山脇百合子 絵
978-4-8340-0186-0 福音館書店

日ようびのあさ、らいおんみどりがもうふをはねのけてとびおきると、たなからキャベツが2つおちました。らいおんみどりは「せわのやけるキャベツだ。たべちゃうぞ」といって、それを2つとも口にほうりこみました。それから、ゆかにすりおちたもうふにも「せわのやけるもうふだ。たべちゃうぞ」とどなりました。



40 ライオンと魔女

C.S.ルイス 作 瀬田貞二 訳 岩波書店
978-4-00-115021-6

4人の子どもたちは、白い魔女に支配されたナルニアにやって来ました。いつまでも冬が続いています。そのとき「アスランが動き出した」という知らせが、入りました。その名前を耳にただけで、子どもたちは、嬉しい気持ちになりました。アスランこそ、ナルニアを創ったライオンだったのです。

ライオンと魔女

C.S.ルイス 作 瀬田貞二 訳



ナルニア国ものきたり 1
岩波書店



41 ライオンと歩いた少年

エリック・キャンベル 作
中村和彦 絵 さくまゆみこ 訳
徳間書店 978-4-19-860447-9

クリスと父は、恐怖とけがで、ぼうっとしていました。タンザニアに行く途中、飛行機がついたくしたのです。パイロットも重傷です。救助隊がやってくるまで、生きのびることができるだろうか。ふと気がつくとおそろしいものが目に入りました。ライオンの群れがこちらを見ているのです。

ちしきのほん

42 ライオン

アンゲリカ・ホーファー 著
ギュンター・ツィースラー 写真
藤原英司 訳 くもん出版
978-4-87576-858-6

アフリカの草原にくらすライオンのおれは、暑い昼間は木の下で昼寝をしています。日がしずむと、メスのライオンたちは狩にでかけます。1頭がえものをおいかけ、もう1頭がまちふせをして、力を合わせてたおします。メスたちと子どもたちはおなかいっぱい食べます。

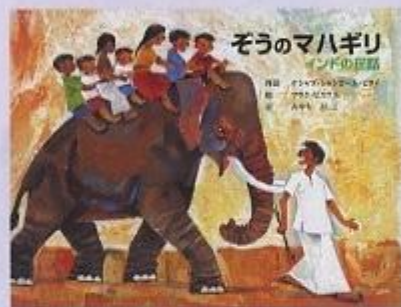


ぞう

43 またもりへ

マリー・ホール・エッツ 文・絵
まさきりこ 訳
福音館書店 978-4-8340-0659-9

ぼくが森へいくと、どうぶつたちがまわっていて、みんなであうべをすることになりました。ぼくがキリンをよびだすと、キリンはくびをのばし、あたまが見えなくなりました。年とったゾウは、「よろしい、なかなかよろしい」といいました。



44 ゾウのマハギリ

インドの民話

ケシャブ・ジャンカール・ビライ 再話
ブラク・ビスワス 絵 みやちとしこ 訳
グランマ社 978-4-906195-45-9

あるとき、村の人たちは、ゾウのマハギリに、おまつりのほたざおをはこぼせました。ところがほたざおを立てるあなのまえで、マハギリはきゅうにあとすさをしました。ゾウつかいが、むちがおれるほどたたいても、あなに立てようとしません。あなの中になにかがいますのです。

45 ゾウのババール

こどものころのおはなし

ジャン・ド・ブリュノフ 作 やがわすみこ 訳
評論社 978-4-566-00022-3

森でくらすババールは、かりゅうどにおいかけて、町にやってきました。たくさんのいえ、バス、じどうしゃ、ようふく、めずらしいものばかりです。デパートに入ったババールは、エレベーターがおもしろくて、ちかしつからてっぺんまで10ぺんも、のぼりおりました。



また もりへ

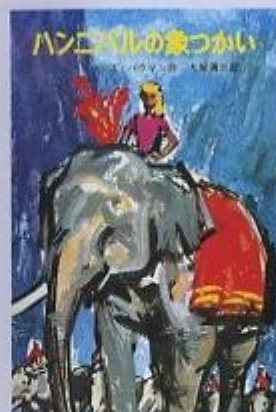


46 たのしいゾウの大パーティー

パウル・ビーヘル 作 大塚勇三 訳 岩波書店

町にサーカスがきました。道化やライオンが行進してきます。行列のいちばんあとに、本物くらい大きな作りもののゾウがきました。サーカスの団長は、あしたの朝、子どもたちはみんなスプーンを持って、ゾウの大パーティーにきてほしい、といいました。

たのしいゾウの大パーティー



47 ハンニバルの象つかい

ハンス・パウマン 作 大塚勇三 訳 岩波書店

紀元前3世紀、カルタゴとローマは、地中海をはさんではげしい戦いをくり返していました。カルタゴの最強の武器は、戦争用の象でした。

ある日、象のスルーは、がれきの中から一人の少年を救い出しました。やがて少年は、スルーの象つかいになります。

ちしきのほん

48 ゾウの子ラウルとなかまたち

キャサリン・ペイン 作 水原洋城 訳
岩波書店 978-4-00-116201-1

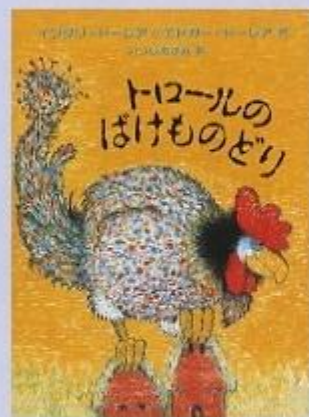
アフリカのケニアの広いくぼ地で、ゾウの子ラウルは生まれました。おかあさんのおちちをのみ、なかまのゾウたちに見守られて育ちます。ゾウたちは、人間には聞こえない声を出して、水を飲みに行こうとよびかけたり、きけんを知らせたりしています。



49 ロージーのおさんぽ

バット・ハッチンス 作
わたなべしげお 訳
偕成社 978-4-03-202210-0

メンドリのロージーが、おさんぽにおでかけ。おにわをすたこら。でも気をつけて。ロージーのうしろを、キツネがこっそり、つけていますよ。



50 トロールのばけものどり

イングリ・ドーレア、エドガー・ドーレア 作
いつじあけみ 訳 福音館書店

なつのゆうがた、子どもたちが森へいくと、ばけものどりがいました。子どもたちは、にげだしました。ばけものどりは、うちまでおいかけてくると、ときのこえをあげ、大きなねをばたばたさせました。オーラは、らっぱじゅうに、ぎんのボタンをこめ、ひきがねをひきました。

51 ながいながいペンギンの話

いぬいとみこ 作 山田三郎 絵 理論社
978-4-652-00501-9

ルルとキキは南極生まれのペンギン。ある日、ルルは、こっそり一人で外に出てみました。こおった雪に、おなかをつけて、すべってみると、じょうずにできました。どんどんすべっていくと、大きな鳥がルルめがけて、まいおりてきました。ルルは、いちもくさんににげました。



52 からすのカーさんへびたいじ

オールダス・ハクスリー 文
バーバラ・クーニー 画
じんぐうてるお 訳 富山房 978-4-572-00302-7

カラスのカーおくさんは、毎日、たまごを1つ、うみます。ところが、毎日おくさんがるすの間に、ヘビのガラガラどんが樂にしのびこんで、たまごを一口でのみこんでしまいます。

ある日、おくさんが帰ってくると、ガラガラどんがたまごを飲みこんでいるところでした。



みにくいガチョウの子

ディック・キング＝スミス 作 ト部千恵子 訳



53 みにくいガチョウの子

ディック・キング＝スミス 作 ト部千恵子 訳
岩波書店

ジャックは鳥が大好き。ある日、動物園で大きなダチョウを見ました。大きくて、かしこそうで、たくましい鳥。動物園の人は、みんなにダチョウのたまごを見せてくれました。ジャックは、そっとたまごを持ってきてしまいました。自分のガチョウに、温めさせようと思ったのです。

ちしきのほん

54 アホウドリに夢中

長谷川博 著 新日本出版社
978-4-406-03244-5

伊豆諸島の鳥島にくらすアホウドリ。黄色い頭に、ピンクのくちばし、大きな白いつばさを広げて、海の上をグライダーのように飛ぶ美しい鳥です。絶滅寸前のアホウドリを増やすために、巣をつくる岩場に草を植えることになりました。

無人島での保護活動 30 年の記録です。



さかな

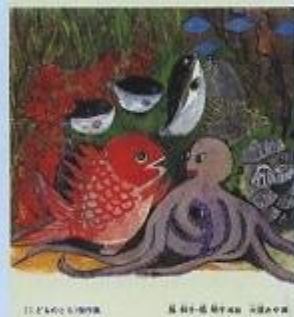
55 しりたがりやの ちいさな魚のお話

エルサ・ベスコフ 作・絵 石井登志子 訳 徳間書店
978-4-19-861133-0

スイスイは、スズキという小さなさかな。いつもカレイのおばさんやカワカマスのおじさんに、かわいがられていました。スイスイはしりたがりやで、水の外にいるニンゲンを見てみたい。とおもっていました。ある日、スイスイは男の子のつりばりにかかってしまいました。



あたごの浦



56 あたごの浦 讃岐のおはなし

協和子、脇明子 再話 大道あや 画 福音館書店
978-4-8340-1194-4

あるお月さんのきれいなばんのこと、あたごの浦になみがよせてはかえし、すなはまがキラキラとひかっていた。そのひかりにうかれて、すなはまへあがったタコとタイが、「こんばんは、お月さんがきれいなねん、さかなどもをあつめて、えんげいかいでもせんか」というはなしになったんやと。

57 屋根うらべやにきた魚

山下明生 作 太田大八 画 岩波書店
978-4-00-115968-4

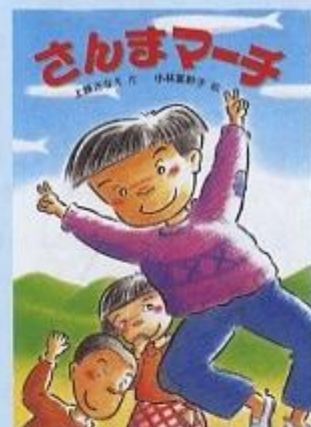
ぼくのうちは、いかだの上に建っている。屋根うらのぼくの部屋の前には、海に向かってすべり台がついているんだ。ある夜、すべり台をのぼって、魚がぼくの部屋をたずねてきた。「おやすみのところを、すみません。寒いんです。」



58 さんまマーチ

上條さなえ 作 小林富妙子 絵 国土社
978-4-337-14305-0

おいらはひろし、4年生。とうちゃん、かあちゃんと8人兄弟の大家族だ。おかずのさんまは半分ずつみんなで分ける。じゃんけんして勝ったら、頭の方がとれるんだ。おいらのゆめは、さんまを1びき食うこと、野球選手になることだ。



がんばれヘンリーくん



59 がんばれヘンリーくん

ベバリー・クリアー 作 ルイス・ダーリング 絵
松岡享子 訳 学習研究社 978-4-05-202661-4

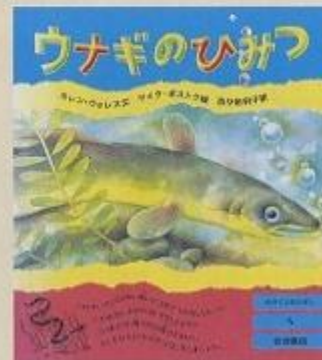
ヘンリーくんは、ペットショップで2ひきのグッピーを買いました。ところが家に帰ると、赤ちゃんが38ひきもいるではありませんか。何日かたつと、また赤ちゃんが生まれました。赤ちゃんはどんどんふえて、部屋中に、グッピーの入ったガラスびんが、ずらりとならびました。

ちしきのほん

60 ウナギのひみつ

カレン・ウォレス 文 マイク・ボストク 絵
百々佑利子 訳 岩波書店

サルガッソー海でウナギの赤ちゃんが生まれました。すきとおった体はヤナギの葉っぱのようです。ウナギは海を泳いで、3年目に海岸にたどりつきます。川をさかのぼって、どろの中に住み、どんどん大きくなります。やがてふるさとの海にもどる日がくるのです。



かえる

61 ゆかいなかえる

ジュリエット・キープス 文・絵
いしいももこ 訳
福音館書店 978-4-8340-0033-7

たまごから生まれた4ひきのカエル。いちばんはやくおよげるのはだれ？ サギがやってきたら、ハスのはの下にかくれます。おなかがすいたら、トンボのたまごと 水草でごはん。よるには、なつのうたをうたいます。



なると、「それひけ！やれひけ！」たくさんのカエルが、つなをひきはじめました。

62 かえるのつなひき

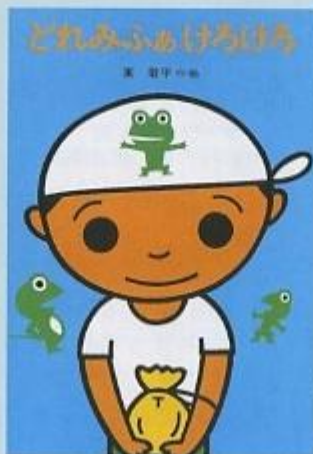
儀間比呂志 作・絵 福音館書店

むかし、おきなわじまで、たんぼのいねにわるい虫がわきました。カエルたちは、虫をおいはらうために、つなひきをして大さわぎをすることにします。「じゃーん」あいすのかねが

63 どれみふぁけろけろ

東君平 作・絵 あかね書房
978-4-251-00684-4

「カエルになりたいなあ」およぎののがてな たつくんは、すいすいおよくカエルが、うらやましい。からんからんと かねがなって、いつのまにか、カエルの学校にきていました。先生がいいました。「しゅっせきをとりますぞ。あおがえる たけしくん」



64 かえるの王さま

「子どもに語るグリムの昔話2」から

佐々梨代子、野村滋 訳 こくま社
978-4-7721-9008-4

むかし、おひめさまが、金のまりを森の泉に落としてしまいました。泣いていると、カエルが まりをとってくるから、仲良しになってくださいと言って、拾ってきました。けれども、おひめさまは カエルからまりを受け取ると、走って帰ってしまいました。



65 火曜日のごちそうはヒキガエル

ラッセル・E・エリクソン 作
ローレンス・ディ・フィオリ 絵 佐藤涼子 訳
評論社 978-4-566-01336-0

ウォートンとモートンはヒキガエルの兄弟。モートンがカブトムシのさとうがしを作りました。あんまりおいしいので、ウォートンはおばさんにとどけたいと言い出しました。外は雪が積もっています。ウォートンは、服をたくさん着て、スキーをはくと出かけました。

ちしきのほん 66 にんじゃあまがえる

榎本功 写真 ひさかたチャイルド
978-4-89325-061-2

あまがえるは、にんじゃみたい。草の中では、みどりいろに、石の上では、はいいろに、からだのいろをかえられます。はっぱの中にかくれたら、どこにいるか、さがせるかな？ ジャンプもすごい。ピョンととんで、ほらこのとおり、一本のゆびで、ぶらさがれる。



おかしなペット

67 ふしぎなおたまじゃくし

スティーブン・ケロッグ 作 すずきまさこ 訳
 鑑というか社 978-4-9900714-0-9

ルイスはスコットランドにいるおじさんから、たんじょうびプレゼントに「オタマジャクシ」をもらいました。その「オタマジャクシ」は、どんどん、どんどん、大きくなりました。もういえのふるおけにも入りません。ルイスは、こっそり学校のプールへつれていくことにしました。



68 ヘビのクリクター

トミー・ウンゲラー 作 中野完二 訳
 文化出版局 978-4-579-40099-7

クリクターは、ボア・コンストリクターという大きなヘビ。フランスの小さな町に、ポドさんとくらしていました。ポドさんはクリクターをとてかわいがりました。ひもをつけてかいものにいき、ながいながいベッドをよういし、ゆきの日にはセーターをきせてやりました。



69 しあわせいっぱい荘にやってきたワニ

アーシュラ・ウィリアムズ 作 堀川理万子 絵
 吉上泰太 訳 福音館書店 978-4-8340-0555-4

ふなのりのジョニーは、ワニのキティーを連れて航海から帰ってきました。キティーは、大家のミネアボリスさんと楽しく暮らし始めました。しばらくして、またジョニーが航海から帰ってみると、なんとミネアボリスさんがキティーのおなかの中に入っていました。



70 かしいブタのロリポップ

ディック・キング＝スミス 作
 ジル・バートン 絵 もりうちすみこ 訳
 アリス館 978-4-7520-0222-2

わがままな王女がブタをかいいたいと言いました。王様は、国中からブタを集めました。王女が気に入ったのは、やせたみずぼらしいロリポップ。かい主のジョニーとおしろに住むことになります。ロリポップは、ジョニーのいうことはよく聞けれど、王女のいうことは聞きません。



71 イグアナくんのおじゃまな毎日

佐藤多佳子 作 はらだたけひで 絵
 偕成社 978-4-03-610110-8

誕生日プレゼントにイグアナをおしつけられた樹里。イグアナの世話なんて絶対ヤダだったから、名前は「ヤダモン」。イグアナは成長すると2メートルにもなる大トカゲです。ふだんは草食でおとなしいけれど、あばれだすと手におえません。とうとう、樹里は「ヤダモン」を捨てにいく決心をしました。



ちしきのほん

72 家族になったスズメのチュン 森の獣医さんの動物日記

竹田津実 著 偕成社
 978-4-03-507160-0

獣医の竹田津さんは、傷ついた野生の動物のちりょうをし、元気になると北の森へ帰しています。でもヒナのときに連れてこられたスズメのチュンは、外をこわがって、野生に帰ろうしません。家の人と同じ食事をし、家の人に結婚を申し込み、自分を人間だと思っているのです。



つき

73 つきのぼうや

イブ・スパンク・オルセン 作・絵
やまのうちきよこ 訳
福音館書店 978-4-8340-0456-4

あるばん、お月さまは、いけにうつる自分のすがたを見つけて、月のぼうやにいました。「あの月をつれてきてくれないか。ともだちになりたいのだ」月のぼうやは、元氣よくおりていきました。ほしをけとばし、くもをつきめけていくと…。



74 まんげつによるまで まちなさい

マーガレット・ワイズ・ブラウン 作
ガース・ウィリアムズ 絵 まつおかきょうこ 訳
ペンギン社 978-4-89274-005-3

アライグマのぼうやは、よるを見たくてたまりません。でも、おかあさんは、「まんげつによるまでまちなさい」といいます。まんげつをまつうちに、ぼうやは、すこし大きくなりました。

75 たくさんのお月さま

ジェームズ・サーバー 文 ルイス・スロポドキン 絵
なががわちひろ 訳 徳間書店
978-4-19-860104-1

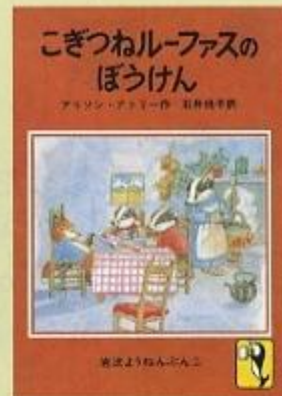
むかし、おひめさまが、病気になりました。おひめさまは、お月さまをもらったら、元気になる和王さまにいました。でも、大臣にも、えらい大先生にも月をもってくることはできません。道化師だけが「すぐにとってきてあげますよ」と約束します。



76 こぎつねルーファスのぼうけん

アリソン・アトリー 作 石井桃子 訳
岩波書店 978-4-00-115961-5

子ギツネのルーファスは、夜中にひとりで川に行きました。空にはお月さまのぼり、波の上には金色の星のかけらやゆがんだ月が、かがやいています。ルーファスが、つり糸を川に入れると、たちまち月のきれはしや小さな金色の星がかかってきました。



77 月からきたトウヤーヤ

肖甘牛 作 君島久子 訳
岩波書店 978-4-00-110377-9

あるときおばあさんが、月からおりてきたおじいさんにわらじを作ってあげました。そのお礼に種をもらい、大切に育てると、光りかがやくトウモロコシがみのりました。トウモロコシは、やがてかわいい男の子になりました。おばあさんはトウヤーヤと名づけ、仲良くくらしはじめます。

ちしきのほん

78 月 宇宙たんけんたい 2

フランクリン・M・ブランリー 文
トゥルー・ケリー 絵 神島純夫 訳
小峰書店 978-4-338-19402-0

1969年、アポロ11号は、はじめて月にありました。宇宙飛行士たちは、灰色と茶色の世界を調べましたが、水も、植物も、動物も、ほかのどんな生き物も発見できませんでした。宇宙飛行士が、ぶかっこうな宇宙服を着て、ポールみたいにはねると、足あとが、くっきり残りました。



79 ほしになった りゅうのきば

君島久子 再話 赤羽末吉 画
福音館書店 978-4-8340-0015-3

2ひきのりゅうがけんかをして、天をやぶいてしまいました。天のさけめから雨やひょうが、ずっとふってくるので、人びとは山のほらあなに、にげこんでくらしています。ゆうかんなわかものサンは、天のさけめのつくろいかたをききに、ライロン山にすむ、みどりのひげのろうじんをたすねました。



80 ちびっこカムのぼうけん

神沢利子 作 山田三郎 絵 理論社
978-4-652-00503-3

ちびっこカムと山の大おにガムリイのたたかいが始まりました。カムは三日月にまたがり、北斗星にロープをまきつけ、力いっぱい引っばります。北斗のピシャクが かたむいて中の水がこぼれそうです。大切な火が消えそうになり、ガムリイの顔は、海の色より青くなりました。

81 星のひとみ

トベリウス 作 万沢まき 訳 岩波書店

フィンランドのお話です。赤んぼうが、たった一人で雪の上に横たわって、星を見ていました。家族のソリから落ちてしまったのです。オオカミたちがやってきて、ながめていましたが、そのまま立ち去りました。赤んぼうのひとみに星の光が宿って、ふしぎな力があつたからです。



ほしになったりゅうのきば

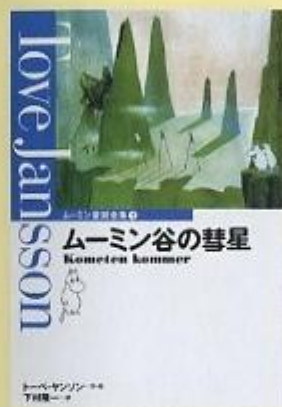
星のひとみ



82 風にのってきた メアリー・ポピンズ

P.L. トラヴァース 作 林容吉 訳 岩波書店
978-4-00-114052-7

ジェインとマイケルは、メアリー・ポピンズとクリスマスプレゼントを買いに行きました。とつぜん、青いうすものを身につけた女の子が店にかけこんできました。それは、プレアデース星の七人姉妹の二番目、マイアでした。マイアは、「買い物を手伝って」とジェインたちにたのみます。



83 ムーミン谷の彗星

トーベ・ヤンソン 作・絵 下村隆一 訳 講談社
978-4-06-188221-8

ある日、雨がふって、緑のムーミン谷の何もかもが、どす黒くなりました。ムーミントロールとスニフ、スナフキンは、地球に何が起きたのかを聞きに、天文台に出かけます。急な川をいかだで下り、山道を登り、天文台に着くと、望遠鏡の真ん中で、赤い彗星が光っていました。

ちしきのほん

84 宇宙探検 写真で見る宇宙の旅

ピーター・ボンド 文 小栗竹由美 訳
福音館書店 978-4-8340-0280-5

ハッブル宇宙望遠鏡は、地球の595km上空を飛びながら、何十億光年かなたの銀河をとらえています。この本には、ハッブル宇宙望遠鏡が写した火星や土星、彗星や小惑星の美しい写真がたくさんあります。本を読みながら星の誕生から死まで、何十億光年の宇宙探検ができます。



風にのってきた メアリー・ポピンズ



85 木はいいなあ

ユードリイ 作 シーモント 絵 さいおんじさちこ 訳
偕成社 978-4-03-327090-6

なつのあつい日、こかげはすずしい。みきによりかかって、目をとじると、かぜがとおりすぎる。セミもなっている。夕立にあったら、木の下であまやどりもできる。いえのそばに大きな木があると、あらしからまもってくれるよ。木はいいなあ。



86 おおきなかしの木

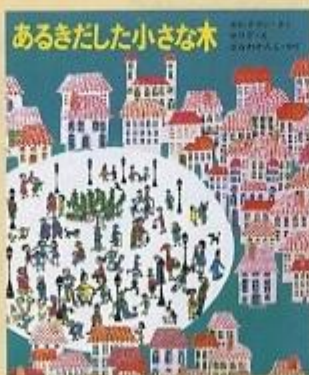
エリザベス・ローズ 文 ジェラルド・ローズ 絵
ふしみさを 訳 岩波書店
978-4-00-110889-7

むかし、リスがどんぐりをじめんにおとしました。どんぐりはめを出し、かしの木のわかぎになりました。それからなん百年もたち、大きくなったかしの木のねもとには、キツネやアナグマが、すをつくりました。子どもたちは木にブランコをかけてあそびます。

87 あるきだした小さな木

ボルクマン 作 セリグ 絵 はなわかんじ 訳
偕成社 978-4-03-404140-6

ふかい森にちびっこの木が生えていました。ある日、森にあそびにきた男の子のかぞくを見て、ちびっこの木は、「あの人たちといっしょにくらそう」と考えます。そして、まいばん、からだをゆすり、とうとう百本の根っこを地面からぬいて、歩き出しました。



88 太陽の木の枝

ジブシーのむかしばなし

フィッツォフスキ 再話 堀内誠一 画 内田莉莎子 訳
福音館書店 978-4-8340-1883-7

むかし、王様が、太陽の木の枝を持ってきた者を姫の夫にするとちかいました。そこで、一人の若者が、太陽の木の枝を求めて、旅に出ました。太陽の木は、葉が星で、花は月で、枝には小さな太陽が実り、白い4匹のおそろしい犬に守られています。

太陽の木の枝

ジブシーのむかしばなし フィッツォフスキ再話 内田莉莎子訳



マツの木の王子

キャロル・ジェームズ 作 猪熊葉子 訳
フェリシモ 978-4-89432-172-4



89 マツの木の王子

キャロル・ジェームズ 作 猪熊葉子 訳
フェリシモ 978-4-89432-172-4

山のマツ林で、マツの木の王子は、シラカバのむすめと愛しあうようになります。マツの木の王は、おこってシラカバを切りたおしますが、王子も悲しみのあまりたおれてしまいます。材木になった二人は、ほりもの師のおじいさんを買われて、みごとな黒馬と銀のシカにほり上げられました。

ちしきのほん

90 松 日本の風景

ゆのきようこ 文 阿部伸二 絵
理論社 978-4-652-04035-5

海岸の近くでは、しお風で作物がかれたり、畑がすなでうまったりしてしまいます。そこで日本人は、長い間、風よけのために、海岸にクロマツを植えてきました。今、あちこちのすなはまだ美しい松なみ木が見られるのは、そんなわけがあるのです。



きょうりゅう

91 きょうりゅうくんとさんぽ

シド・ホフ 作 いぬいゆみこ 訳
ペンギン社 978-4-89274-012-1

ダニーは、はくぶつかんで、きょうりゅうを見ました。「こいつが生きていたらいいのにな」とつぶやくと、「あそぼう」と声がしました。きょうりゅうは、あたまを下げて、「ぼくにおのりよ」といいました。ダニーは、きょうりゅうにのって、町へさんぽにでかけます。



92 きょうりゅうのかいかた

くさのだいすけ 文 やぶうちまさゆき 絵
岩波書店 978-4-00-115143-5

まきとめぐみは、どうぶつずきのきょうだいです。いつもおとうさんに「もっと大きいどうぶつをかわせて」と、たのんでいました。すると、ある日おとうさんが、きょうりゅうのこどもをもらってきて、「ふたりでちゃんとかうんだよ」といいました。

93 きょうりゅうが学校にやってきた

アン・フォーサイス 作 むかいながまさ 絵
熊谷鑑司 訳 金の星社 978-4-323-00942-1

ある日、小さなきょうりゅうが、スキップしながら、教室に入ってきました。先生も子どもたちもびっくり。きょうりゅうは、いすにすわると、つくえにぐったりとよりかかってしまいました。子どもたちが花びんの花をあげると、むしゃむしゃ食べました。



94 きょうりゅう大すき!

アンジェラ・マカリスト 作 大社玲子 挿絵
多賀京子 訳 徳間書店 978-4-19-860944-3

ディニーは、きょうりゅうが大好きな女の子。今年の夏休みの旅行は、ディニーが決めることになりました。もちろん「きょうりゅうとすごす夏休み旅行」です。でもホテルじゃなくて、どうくつにとまるなんてママに言えません。



95 海辺のたから

ヘレン・ブッシュ 作 沢登君恵 訳
ぬぶん児童図書出版

メアリーは、初めてお父さんに連れられて、化石を集めに海岸に行きました。岩の中から、美しいアンモナイトや魚、ウミユリなどをさがし、ハンマーで岩からはがすのは、むずかしい仕事です。今から200年前、恐竜の化石をたくさん発見したメアリー・アニングのお話です。

ちしきのほん

96 どうしてわかる きょうりゅうのすがた

工藤晃司 文・絵 大日本図書
978-4-477-01167-7

恐竜のふくげん図は、時代によって変わってきました。新しいほねの化石が発見されたり、最近では、けんびきょうやCTスキャンを使って、化石の中まで調べることができるようになったためです。今では、恐竜は立ち上がって歩くことができたと考えられています。

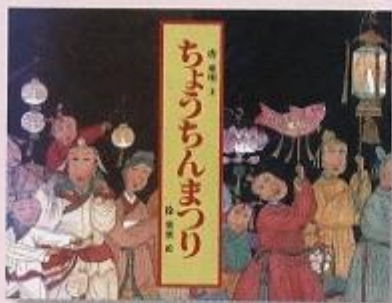


ときをこえて

97 ちょうちんまつり

唐亜明文 徐楽楽 絵 福音館書店

むかし、中国に主七という男がいました。ちょうちんまつりの日、山にいくと、ろうじんたちが暮をうっていました。主七がねっしんに見ていると、ろうじんはなつめのみをくれました。それをたべて、ふと気がつく、ろうじんの白いひげが、じめんまでのびています。いつのまにか、なん百年もたっていたのです。



98 とぶ船 上・下

ヒルダ・ルイス 作 石井桃子 訳 岩波書店

978-4-00-114136-8, 978-4-00-114137-5

ピーターが手に入れたおもちゃの船は、魔法の船でした。持ち主が願ったところへ、連れて行ってくれるのです。ピーターときょうだいたちは、船に乗ってエジプトに行きました。船は「むかし」へも連れて行ってくれました。神々が住んでいた大昔にも、1,000年前のイギリスにも。



99 トムは真夜中の庭で

フィリパ・ピアス 作 高杉一郎 訳 岩波書店

978-4-00-110824-8

トムは眠れないまま、寝室で横になっていました。ホールの大時計が13回鳴りました。13時だって？ トムは大時計を見に、1階におりました。暗いホールに月の光を入れようと、うら口のドアを開けると、そこには花が咲きみだれる見たこともない庭が広がっていました。

100 サラシナ

芝田勝茂 作 佐竹美保 絵 あかね書房

978-4-251-06655-8

深い霧のなかを、サキは飛んでいました。降り立ったところは、古代の多摩川のほとり。そこで出会った男は、ネグリジェを羽衣とまちがえ、サキを天女と思いこんでしまいます。もとの生活にもどってからも、サキはその男が忘れられません。



時の旅人

アリソン・アトリー 作
松野正子 訳



101 時の旅人

アリソン・アトリー 作 松野正子 訳

岩波書店 978-4-00-114531-1

ペネロピーは、母の親戚のサッカーズ農場にやってきました。農場は石造りの古い建物で、昔はバビントン一族の館でした。

ある日ペネロピーは、2階のドアを開けると、そのまま立ちすくみました。部屋の中では、昔風のドレスを着た4人の貴婦人がゲームをしていたのです。

ちしきのほん

102 絵で見るある町の歴史

タイムトラベラーと旅する12,000年

アン・ミラード 文 スティーブ・ヌーン 絵

松沢あさか、高岡メルヘンの会 訳

さ・え・ら書房 978-4-378-00108-1

12,000年前、川のほとりに、人々が住み始めました。狩をして、魚をとり、草や木の実をさがして食べていました。それから、家が建ちならび、新しい人々が押しよせ、戦争があり、城ができ、時は過ぎていきます。本の中で、12,000年の時間を旅することができます。



おばけ

103 がたごとがたごと

内田麟太郎 文 西村繁男 絵 童心社
978-4-494-00887-2

おきゃくがのります。そろそろそろそろ。がたごと、がたごと、きしゃははしります。がたごと、がたごと…。えきにつきました。おきゃくがおります。そろそろそろそろ。あれあれ、おりてきたのは、ひとつ目ござう、ろくろくび、かっぱ、おかしなおきゃくばかりです。



104 おばけのひっこし

さがらあつこ 文 沼野正子 絵
978-4-8340-0878-4 福音館書店

むかし、京のまちに、みぶんのたかい、おとどがいました。ひろいいえをさがしていると、大きなあきやがありました。でも、きんじょの人が、「おばけがすんでいるからやめなさい」といいます。おとどは「かんらかんら」とわらって「わたしはこわくないぞ」といいました。

105 おばけのジョージー おおてがら

ロバート・ブライト 作・絵 なかがわちひろ 訳
978-4-19-861804-9 徳間書店

ちいさなおばけのジョージーは、ホイッティカーさんのいえのやねうらべやにすんでいます。ジョージーはとてもはすかしがりやで、人をおどかすことなどでできません。

あるばん、ホイッティカーさんとおくさんがでかけると、くろいふくめんをした二人のどろぼうがやってきました。



106 小さいおばけ

オトフリート・プロイスラー 作
フランツ・ヨーゼフ・トリップ 絵 はたさわゆうこ 訳
徳間書店 978-4-19-861714-1

ドイツのフクロウ城に小さいおばけが住んでいます。毎ばん12時に目をさまし、13このかぎがついたかぎたばを持って、さんぽに出かけます。かぎたばをひとつふりすると、どのとびらもちまち開きます。小さいおばけは、1時間しか起きてられません。昼間の世界を見たいと思いました。



107 紳士とオバケ氏

たかどのほうこ 作 飯野和好 絵 フレーベル館
978-4-577-02231-3

マジノ・マジヒコ氏は、まじめな紳士で、規則正しい生活を送っています。ある日曜日、12時きっかりに、昼食のしたくをして、居間におぼんを運びました。すると自分のいすに白い服を着た人が、プカンとうかんでいます。ふりむくと、その人の顔はマジノ氏そっくりでした。



ちしきのほん

108 おばけ

西本鶏介 文 田代三善 絵
佼成出版社

日本には、数千種類のおばけがいます。やなぎの下にあらわれるゆうれい、ろくろっ首、ぬりかべ、雪女、あまのじゃく、おに、てんぐ、木の精や花の精、みんなおばけの仲間です。科学の進んだ今も、どこかで、新しいおばけが生まれているかもしれません。





こわい本

109 めっきらもっきら どおんどん

長谷川摂子 作 ふりやなな 画
福音館書店 978-4-8340-1017-6

かんだが「めっきらもっきら どおんどん」とうたっていると、「こっちゃきて」と木のあなからこえがします。あなをのぞくと、ひゅうっとすいこまれて、おちたところは、よるの山。むこうからおかしな3人ぐみがやってきて、「あそぼうぜ」とかんだにとびつきました。



110 ゆうれいフェルピンの話

リンドグリーン 文 ヴィークランド 絵
石井登志子 訳 岩波書店
978-4-00-110618-3

おばあちゃんは、わたしとおにいちゃんに、いつもこわいゆうれいのはなしをします。むかしフェルピンという男が、からだじゅうのちがこあって、ゆうれいになり、はかばかにいるということです。おばあちゃんの家からのかえりみち、だれかがくらやみでわたしをつかまえました…。



111 大千世界のなかまたち

スズキコージ 作 福音館書店

あなたのまわりには、目に見えないけれど、ふしぎな仲間たちがくらしています。本だから本を取ろうとすると、どうしても取れないのは「スキママン」がいるからです。テストの問題がわからず、頭もいたくなって、いやになるのは「ナンモーン」のせいです。



吸血鬼の花よめ

ブルガリアの昔話 八百板洋子 編訳 高森登志夫 絵



112 吸血鬼の花よめ

ブルガリアの昔話

八百板洋子 編・訳 高森登志夫 絵
福音館書店 978-4-8340-1366-5

昔、美しいおひめさまがりっぱな若者と婚約しました。しかし、若者は吸血鬼におそわれ、たましいをうばわれてしまいます。

あるばん、若者の使いの者が、ひめをむかえにきました。使いの者は、大きなはかの前に行くと、はか石を持ち上げ、青いほのおが燃える地下の部屋にひめを連れて行きました。

113 ミス・マウンテン

「幽霊を見た10の話」から

フィリパ・ピアス 作 高杉一郎 訳
岩波書店 978-4-00-110989-8

デイジーがおばあちゃんの家泊まった夜、だれかが2階から下へおりて行く気配がしました。次の夜も同じでした。デイジーでもない、おばあちゃんでもないだれかが下へおりていったのです。そして、とつぜん、階下から、するどいさけび声があがりました。いったいだれ？



雪女 夏の日の夢

ラフカディオ・ハーン 作 脇田幸三 絵



114 耳なし芳一の話

「雪女・夏の日の夢」から

ラフカディオ・ハーン 作 脇田幸三 訳 岩波書店
978-4-00-114563-2

目の見えない芳一は、琵琶の名手です。高貴な方のおやしきで平家物語を語ってほしいとたのまれ、毎夜どこかへ、でかけるようになりました。心配した和尚さんが、あとをつけさせると、芳一は墓の前でたった一人で、琵琶をひいていました。

115 七わのからす

グリム童話

フェリクス・ホフマン 絵 せたいい 訳
福音館書店

むかし、むすこが7人いるいえに、やっ
と女の子が生まれました。ちちおや、むす
こたちを水くみにいかせましたが、いっ
こうにかえてきません。ちちおやは「ぼうすどもめ、カラスにでもなっ
ちまえ」とさげびます。そのとたん、はばたきがきこえ、まっくろなカラス
が7わ、とびさりました。



116 ペちゃんこスタンレー

ジェフ・ブラウン 文 トミー・ウンゲラー 絵
さくまゆみこ 訳 あすなろ書房
978-4-7515-1884-7

スタンレーは、あるあさおきると、ペちゃん
こになっていました。ベッドにたおれてきた
たの下じきになったのです。ちょっとむすむす
ただけで、いたくありません。あつさ 1.3
センチのからだだと、ドアの下もくぐりぬけら
れるし、ふうとうに入って、とおくにおくって
もらうこともできます。



117 小さなスプーンおばさん

アルフ・ブリョイセン 作 大塚勇三 訳 学習研究社
978-4-05-104650-7

あるところに、とつぜん体がティースプーン
くらいに小さくなってしまのおばさんがいまし
た。きょうも家事をしようとしたとたん、小さ
くなったおばさんは、そうじをネズミに、皿あ
らいをネコにうまく押しつけて、ひと安心。あ
とはせんたくと料理をだれかにしてもらわな
くは。



118 いたずらおばあさん

高橋方子 作 千葉史子 絵 フレーベル館
978-4-577-01526-1

洋服研究家のエラババ先生は、若くなる服を
発明しました。その服を1まい着ると、1才若
くなるのです。84才のエラババ先生は、76
まい着て、8才になりました。友だちのヒョコ
ルさんも60まい着て、8才の女の子になりました。
ふたりで町へお出かけです。

いたずらおばあさん



119 リトルベアー

小さなインディアン秘密

リード バンクス 作 高橋由美子 絵 渡辺南都子 訳
小峰書店 978-4-338-12501-7

オムリがもらった誕生日プレゼントは、
小さなプラスチックのインディアン人形。
がっかりです。人形を戸だなに入れて、カ
ギをかけておくと、よく朝、音がします。
用心しながら開けてみると、人形がうずく
まっています。オムリの息がかかると、イン
ディアンはピョンとび上がりしました。



ちしきのほん

120 変身 栗林さんの虫めがね 2

栗林慧 著 フレーベル館
978-4-577-02804-9

虫たちは、変身の名人です。地面を
出て、木にのぼった小さな虫、せなが
がわると、美しい羽根をつけたセミ
になりました。小さいたまごから出て
きたのは、大きなナナフシ。土の中で、
白いさなぎが茶色くなって、カブトム
シになりました。



いろ

121 みどりいろのたね

たかどのほうこ 作 太田大八 絵
福音館書店 978-4-8340-0767-1

まあちゃんたちは、みんなで、はたけにたねをまくことになりました。先生が、一人一人に、みどりいろのたねを5こずつくばりました。まあちゃんは、たねといっしょに、口の中であなっていたメロンあめまでうめてしまいました。

みどりいろのたね



122 ももいろのきりん

中川李枝子 作 中川宗弥 絵
福音館書店 978-4-8340-0044-3

るるこは、おかあさんから、とても大きいももいろのかみをもらいました。ひろげると、へやが、ももいろのひかりでいっぱいになります。るるこは、そのかみで、くびのながい大きなキリンをつくりました。キリンは、るるこをのせて、はしったり、ジャンプしたりします。

123 いろいろへんないろのはじまり

アーノルド・ローベル 作 まきたまこ 訳
富山房 978-4-572-00205-1

むかし、せかいのほとんどは、はいいろでした。

ある日、まほうつかいが、これをちよっぴり、あれをちよっぴりかきまぜて、いろをつくり、それを青いろとよびました。人々は、青をもらって、森もとりのいもも、まわりのものすべてにぬったので、せかいじゅうが青いろになりました。



124 金のがちょうのほん 四つのむかしばなし

レスリー・ブルック 文・画
瀬田貞二、松瀬七織 訳 福音館書店
978-4-8340-0794-7

ある日、ぬけ作が、森へ木を切りに行くと、小人が、食べ物を分けてくれといいました。ぬけ作が分けてやると、そまつな食べ物が、上等の食べ物に変わりました。そして、小人に言われたように、木を切ると、切りかぶに金のがちょうがすわっていました。



ほんとうの空色

バラージュ 作
徳永康元 訳



125 ほんとうの空色

バラージュ 作 徳永康元 訳 岩波書店
978-4-00-114088-0

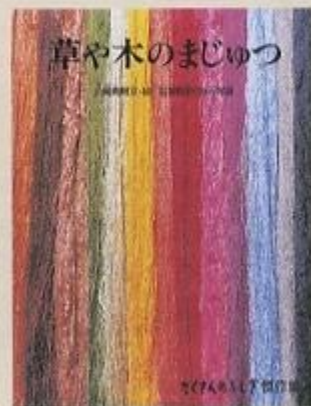
フェルコーが、友だちから借りた青の絵の具をネズミに食べられて、こまっていると、用務員さんがお昼に一分間だけ咲く「ほんとうの空色」という花を教えてくださいました。この花で作った絵の具で、空の絵をかくと、ほんとうに月がのぼったり、天気が変わったりするのです。

ちしきのほん

126 草や木のまじゅつ

山崎青樹 文・絵 石曾根史行 ほか写真
福音館書店 978-4-8340-0652-0

遠い昔から、世界中の人たちは、草や木の花や葉、えだを使って衣服をそめてきました。ヤエザクラの小えだや葉でそめると赤や茶色に、花を使うとピンクになります。みちかな草をとってきて、Tシャツやぬのをそめて、自分だけの色を作ってみませんか。



127 100 まんびきのねこ

ワンダ・ガグ 文・絵 いしいももこ 訳
福音館書店 978-4-8340-0002-3

ある日、おじいさんがネコをさがしに出かけました。おかをこえて、たにをとおり、ネコでいっぱいのおかにつきました。そこにもネコ、あそこにもネコ、百びきのネコ、千びきのネコ、百まんびきのネコ、一おく一ちょうひきのネコがいます。



128 “なんでもふたつ” さん

MS クラッチ 作 K ビーゼ 絵 光吉夏弥 訳
大日本図書

なんでもふたつさんは、ふくは2まいきて、ぼうしも2つかぶります。いえは2けんもって、しごとは2つ。ごはんも2人ぶんたべます。なんでも2つずつがだいすきなのです。でも、おくさんと、むすこが1人ずつしかいないことは、ざんねんにおもっていました。

129 三まいのお札 日本の昔話
「ついでにペロリ」から

東京子ども図書館 編
東京子ども図書館 978-4-88569-052-5

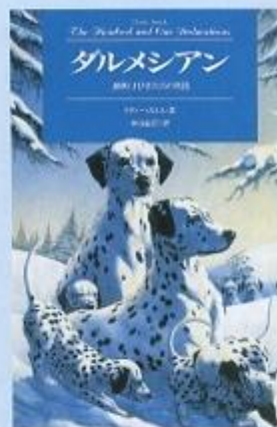
山の寺のこぞうさんは、おにばばが出るからと、おしょうさんが止めるのも聞かず、クリ拾いに行きました。そこで、おしょうさんは、何かこまったことがあったら使えといって、お札を3まいくれました。はたして、こぞうさんは、おにばばにつかまってしまいました。



130 ダルメシアン
100と1びきの犬の物語

ドディー・スミス 著 熊谷勉司 訳
文溪堂 978-4-89423-157-3

ダルメシアン犬の夫婦ポンゴとミセスは、デアリーさんたちといっしょにくらしていました。ミセスに子犬が13びき、生まれました。デアリーの知り合いのクルエラは、ダルメシアンの水玉模様を見て「すてきな毛皮のコートになるわね」といいました。ポンゴはかんかんにおこりました。



131 コウノトリと
六人の子どもたち

M・ディヤング 作 遠藤寿子 訳
岩波書店 978-4-00-110823-1

オランダのショーラ村には、コウノトリは1羽もきません。近くのとこの村にもくるのに。コウノトリは、屋根にのせた荷車の輪の上に巣を作ります。6人の子どもたちは、コウノトリをよびよせようと、輪をさがすことにします。でも使っていない荷車の輪なんて見つかるでしょうか。



ちしきのほん

132 壺の中

安野雅一郎 作 安野光雅 絵
童話屋 978-4-924684-11-9

青い壺の中に海があり、島が1つありました。島には2つの国があり、2つの国にはそれぞれ3つの山がありました。3つの山には4つの城があり、4つの城には5つの町があり、5つの町には6軒の家があり…。こうやってふやしていくと、どんな数になるのでしょうか。



ことばあそび

133 まるかいてちゃん

えかきうた

童話館出版編集部 編 ましませつこ 絵
童話館出版 978-4-88750-051-8

「くーちゃん しーちゃん リットルやのてこちゃん パーマネントのおじょうさん やまこえ やまこえ あめだまかいに ステッキついて パンかいに…」女の子のかおがかけたかな？ うたいながら、えがきあがります。



134 かぞえうたのほん

岸田裕子 作 スズキコージ 絵 福音館書店
978-4-8340-1043-5

「いちばでいぬが、にわとりになんだ」これは「すうじさがしかぞえうた」。「いちくん いちごの たねだけたべた、にーくんにほしの かばやきたべた」こんなおかしな人ばかり出てくるのが「へんなひとかぞえうた」。ほかにもゆかいなかぞえうたが、いっぱいあります。

135 なぞなぞ 100 このほん

M・プラウトフ 採集 松谷さやか 編・訳
M・ミトゥーリチ 絵 福音館書店
978-4-8340-0213-3

「おうさまでもないのに かんむりを かぶり うまに のる きしでもないのに はくしゃを つけ ばんにんでもないのに みんなを おこします」こたえはオンドリ。

ロシアやウクライナなどのなぞなぞが 100 が入っています。



136 お江戸はやくちことば

杉山亮文 藤枝リュウジ 絵
河合楽器製作所・出版事業部

「となりの柿はよく客食う柿だ」うまくいえた？ でも、なんだかへんですね。こんな柿ってあるんでしょうか。はやくちことば、こえに出してとなえてみよう。



137 ことばあそびうた

谷川俊太郎 詩 瀬川康男 絵 福音館書店
978-4-8340-0401-4

「はなのののはな はなのななあになすななのはな なもないのばな」さあ、声に出して読んでごらん。言葉がおどりだして、野にさく花たちが、目の前にうかんでくるよ。

138 ことばのこぼこ

和田誠 作・絵 瑞雲舎
978-4-916016-04-1

「だれがしているかくれんぼう」この中に、動物が、かくれているのがわかりますか？「うたうたう」、「わたしねんねしたわ」、前から読んでも、うしろから読んでも同じ。テンテンがつくと、変わってしまう言葉もあります。「あひるがみずをあびる」「からすががらすをつついてる」



139 木いちごつみ

子どものための詩と絵の本

きしだえりこ 詩 やまわきゆりこ 絵
福音館書店 978-4-8340-0948-4

シーソーにのったら、なにが見えますか？ ソウくんは、赤んぼだったとき、だれにおんぶしてもらったの？ ライオンは、どこやにいったこと、あるかしら？ そんなことをしりたかったら、この本をひらいてください。



140 サッちゃん

版田寛夫 詩 和田誠 絵 国土社
978-4-337-24758-1

「サッちゃんはね サチコっていうんだ ほんとはね だれどちっちゃんいから じぶんのこと サッちゃんて よぶんだよ おかしいな サッちゃん」といううたをしていますか。このうたをつくったさかたさんは、ほかにもたくさんたのしい詩を作っています。

141 いちねんせい

谷川俊太郎 詩 和田誠 絵 小学館
978-4-09-727012-6

「はまべにあいた あなひとつ のぞいてみたら かにがいた みちでみつけた あなひとつ のぞいてみたら ひとがいた」

これは、「あな」という詩のはじまりのところ です。そのほかにも、ふしぎで、ゆかいで、うたいたくなる詩が 22 へん、入っています。

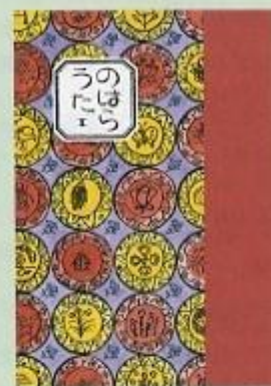


142 のはらうた 1

くどうなおこ 詩 童話屋
978-4-924684-21-8

のはらむらのみんながうたったり、はなしたりしたうたを、くどうなおこさんが書きとめて、この本ができました。

つくった人：こねすみしゅんくん、かぜみつるくん、すみれほのかさん、ありんこたくじくん、こねこまりこさん、ほかにまだまだ。



143 てんぷらぴりぴり

まど・みちお 著
大日本図書 978-4-477-17366-5

「ほら おかあさんが ことしも また てんぷら ぴりぴり あげだした みんなが まった シソの実の てんぷら ぴりぴり あげだした」

てんぷらのおいしそうなおいがしてきませんか？ まど・みちおさんは、1909 年生まれ。長い長い間、詩を作ってきました。

144 星の林に月の船

声で楽しむ和歌・俳句

大岡信 編 岩波書店
978-4-00-114131-3

「天の海に 雲の波立ち 月の船 星の林に 漕ぎ隠る見ゆ」

1000 年以上前に作られた和歌です。声に出して唱え、気持ちよく響きます。昔も今も、5 音や 7 音の言葉が、日本人には唱えやすいからです。この本には、昔から現代までの詩歌 194 作が、入っています。



そのほかの本

いぬ

- ナガナガくん ♪ ホフ文・絵 小船谷佐知子訳 徳間書店 978-4-19-861049-4
 マドレーヌといぬ ♪ ベーメルマンス文・絵 せたていじ訳 福音館書店
 978-4-8340-0363-5
 すばらしいフェルディナンド ♪ ケルン作 内田莉紗子訳 岩波書店
 978-4-00-110366-3
 極北の犬トヨン ♪ カラーシニコフ著 高杉一郎訳 徳間書店
 978-4-19-860725-8
 フランダースの犬 ♪ ウィーダ著 野坂悦子訳 岩波書店 978-4-00-114114-6

ねこ

- あおい目のこねこ ♪ マチーセン作・絵 瀬田貞二訳 福音館書店
 978-4-8340-0040-5
 ひみつのひきだしあけた? ♪ あまんきみこ作 やまわきゆりこ絵 PHP研究所
 978-4-569-68746-9
 ディック・ウィットントンとねこ ♪ ブラウン再話・絵 まつおかきょうこ訳 アリス館
 978-4-7520-0369-4
 ネコのタクシー ♪ 南部和也作 福音館書店 978-4-8340-1759-5
 ねこのパーキンスのおみやげ ♪ イェトマン作 くめみのる訳 偕成社
 978-4-03-521240-9

さる

- かにむかし ♪ 木下順二文 清水崑絵 岩波書店 978-4-00-110577-3
 おさるのまいにち ♪ いとうひろし作・絵 講談社 978-4-06-197822-5
 さるのゼフィール ♪ プリュノフ作 やがわすみこ訳 評論社 978-4-566-00027-8
 さるのきも ♪ 『こどもせかいの民話 上』から 内田莉紗子ほか著 実業之日本社
 978-4-408-36160-4
 西遊記 上・下 ♪ 吳承恩作 君島久子訳 福音館書店
 978-4-8340-0451-9, 978-4-8340-0477-9

ねずみ

- アンジェリーナはバレリーナ ♪ ホラバード文 クレイグ絵 おかだよしえ訳 講談社
 978-4-06-189229-3
 番ねずみのヤカちゃん ♪ ウィルバー作 松岡享子訳 福音館書店 978-4-8340-1099-2
 学校ねずみのフローラ ♪ キング＝スミス作 谷口由美子訳 童話館出版
 978-4-924938-60-1
 子ねずみラルフのぼうけん ♪ クリアリー文 谷口由美子訳 童話館出版
 978-4-924938-67-0
 ネズンタはかせの発見 ♪ 高橋方子著 教育画劇 978-4-87692-563-6

くま

- おかあさんのたんじょう日 ♪ 『おかあさんだいすき』から ブラック文・絵 光吉夏弥訳・編
 岩波書店 978-4-00-115105-3
 くんちゃんはおおいそがし ♪ マリノ作 まさきるりこ訳 ベンギン社
 978-4-89274-024-4

- ニひきのこぐま ♪ イーラ作 松岡享子訳 こぐま社 978-4-7721-0100-4
 北極のムーシカミーンシカ ♪ いぬいとみこ作 理論社 978-4-652-00507-1
 くまのバディントン ♪ ボンド作 松岡享子訳 福音館書店
 978-4-8340-0108-2

うし

- おりこうなアニカ ♪ ベスコフ作・絵 いしいとしこ訳 福音館書店
 978-4-8340-0254-6
 むうしのジャズミン ♪ デュボアザン作・絵 乾侑美子訳 童話館出版
 978-4-924938-63-2
 うんがにおちたうし ♪ クラシロフスキー作 スパイアー絵 みなみもとちか訳
 ポプラ社 978-4-591-01888-0
 わらのうし ♪ 内田莉紗子文 ゴルディチューク絵 福音館書店 978-4-8340-1557-7
 スモーランドの闘牛士 ♪ 『カイサとおばあちゃん』から リンドグリーン作
 石井登志子訳 岩波書店 978-4-00-115093-3

らいおん

- アンディとらいおん ♪ ドーハーティ文・絵 むらおかはなこ訳 福音館書店
 978-4-8340-0003-0
 ラチとらいおん ♪ マレーク文・絵 とくながやすもと訳 福音館書店
 978-4-8340-0045-0
 としよかんライオン ♪ ヌードセン作 ホークス絵 福本友美子訳 岩崎書店
 978-4-265-06817-3
 ライオンが学校へやってきた ♪ ピアス作 高杉一郎訳 岩波書店
 978-4-00-115505-1
 オズの魔法使い ♪ バウム作 渡辺茂男訳 福音館書店 978-4-8340-1042-8

そう

- ぐるんぱのようちえん ♪ 西内ミナミ作 堀内誠一絵 福音館書店
 978-4-8340-0083-2
 そうのたまごのたまごやき ♪ 寺村輝夫作 長新太画 福音館書店
 978-4-8340-0944-6
 そうのホートンひとだすけ ♪ ドクター・スース作・絵 わたなべしげお訳 偕成社
 978-4-03-348040-4
 そうのドミニク ♪ ケルン作 内田莉紗子訳 福音館書店 978-4-8340-2126-4
 象と二人の大脱走 ♪ クロス作 中村妙子訳 評論社 978-4-566-01281-3

とり

- フルリーナと山の鳥 ♪ ヘンツ文 カリジェ絵 大塚勇三訳 岩波書店
 978-4-00-110568-1
 はんぶんのおんどり ♪ ロッシュ＝マゾン作 やまぐちともこ訳 瑞雲舎
 978-4-916016-12-6
 カラスだんなのおよめとり ♪ ギラム文 石井桃子訳 岩波書店
 978-4-00-110301-4
 白鳥とくらし子 ♪ パーカー作・絵 八木田宜子訳 徳間書店
 978-4-19-861608-3
 ポッパーさんとペンギン・ファミリー ♪ R・アトウォーター、F・アトウォーター著
 上田一生訳 文芸堂 978-4-89423-140-5

さかな

- 11ぴきのねこ ♡ 馬場のぼる著 こぐま社 978-4-7721-0004-5
 きんぎょのおつかい ♡ 高部晴市絵 与謝野品子文 架空社 978-4-906268-61-0
 おすのつぽにすんでいたおばあさん ♡ ゴッデン文 なかがわちひろ訳・絵 徳間書店 978-4-19-861360-0
 スイミー ♡ レオニ作 谷川俊太郎訳 好学社 978-4-7690-2001-1
 金魚はあわのおふろに入らない!? ♡ ウィーブ作 宮坂宏美訳 ポプラ社 978-4-591-08722-0

かえる

- かえるがみえる ♡ まつおかきょうこ作 馬場のぼる絵 こぐま社 978-4-7721-0040-3
 ふたりはともだち ♡ ローベル作 三木卓訳 文化出版局 978-4-579-40247-2
 ジェレミー・フィッシャーどんのおはなし ♡ ボター作・絵 いしいももこ訳 福音館書店 978-4-8340-1871-4
 竜の巣 ♡ 富安陽子作 ポプラ社 978-4-591-07931-7
 たのしい川べ ♡ グレーアム作 石井桃子訳 岩波書店 978-4-00-110817-0

おかしなペット

- 赤い目のドラゴン ♡ リンドグリーン文 ヴィークランド絵 ヤンソン由美子訳 岩波書店 978-4-00-110592-6
 ソフィーとカタツムリ ♡ キング＝スミス作 石随じゅん訳 評論社 978-4-566-01330-8
 ムンジャクンジュは毛虫じゃない ♡ 岡田淳作・絵 偕成社 978-4-03-626310-3
 ぼくとくらしたフクロウたち ♡ モワット作 稲垣明子訳 評論社 978-4-566-01100-7
 はるかなるわがラスカル ♡ ノース著 亀山龍樹訳 ブッキング 978-4-8354-4139-9

つき

- おつきさんどうしたの ♡ プレストン文 クーニー絵 岸田杢子訳 岩波書店 978-4-00-115141-1
 ムッシュ・ムニエルとおつきさま ♡ 佐々木マキ作 絵本館 978-4-87110-135-6
 月のしかえし ♡ エイキン文 リー絵 猪熊集子訳 徳間書店 978-4-19-860397-7
 銀のシギ ♡ ファージョン作 石井桃子訳 岩波書店 978-4-00-115086-5
 ドリトル先生月へゆく ♡ ロフティン作 井伏鱒二訳 岩波書店 978-4-00-115008-7

ほし

- たなばた ♡ 君島久子再話 初山滋絵 福音館書店 978-4-8340-0512-7
 てんのくぎをうちにいったはりっこ ♡ 神沢利子作 堀内誠一絵 福音館書店 978-4-8340-1936-0
 パティの宇宙日記 ♡ P=ウォルシュ作 岡本浜江訳 文研出版 978-4-580-81437-0
 銀河鉄道の夜 ♡ 宮沢賢治作 岩波書店 978-4-00-114012-5
 星の王子さま ♡ サン＝テグジュペリ作 内藤濯訳 岩波書店 978-4-00-115561-7

木

- よろこびの木 ♡ リンドグリーン文 オットー絵 石井登志子訳 徳間書店 978-4-19-861304-4
 おおききツリーちいさいツリー ♡ バリー作 光吉夏弥訳 大日本図書 978-4-477-01141-7
 おおきなきがほしい ♡ 佐藤さとる文 村上勉絵 偕成社 978-4-03-330150-1
 おとうさんの庭 ♡ フライシュマン文 イバトゥリン絵 藤本朝巳訳 岩波書店 978-4-00-110888-0
 魔法使いのチョコレート・ケーキ ♡ マーヒー作 石井桃子訳 福音館書店 978-4-8340-0981-1

きょうりゅう

- きょうりゅうのきって ♡ シャーマット文 シマント絵 光吉夏弥訳 大日本図書 978-4-477-16214-0
 ウォーターハウス・ホーキングスの恐竜 ♡ ケアリー文 セルズニック絵 千葉茂樹訳 光村教育図書 978-4-89572-633-7
 化石をみつけた少女 ♡ ブライトン作 セナあいこ訳 評論社 978-4-566-00702-4
 おふろのなかからモンスター ♡ キング＝スミス作 金原瑞人訳 講談社 978-4-06-194750-4
 竜のいる島 ♡ たかしょういち作 理論社 978-4-652-00523-1

ときをこえて

- うらしまたろう ♡ 時田史郎再話 秋野不矩画 福音館書店 978-4-8340-0413-7
 雨ふり花さいた ♡ 末吉暁子作 偕成社 978-4-03-727070-4
 影の王 ♡ クーパー作 井辻朱美訳 偕成社 978-4-03-631510-9
 魔法少女ビーティ・ボウ ♡ パーク著 加島葵訳 新読書社 978-4-7880-9009-5
 グリーン・ノウの子どもたち ♡ ポストン作 亀井俊介訳 評論社 978-4-566-01261-5

おばけ

- うさんごろとおばけ ♡ 瀬名恵子作・絵 グランまま社 978-4-906195-42-8
 おばけとこどものおうさま ♡ にしかわおさむ作・絵 PHP研究所 978-4-569-68557-1
 おばけパーティ ♡ デュケノワ作 おおさわあきら訳 ほるぷ出版 978-4-593-50330-8
 森おばけ ♡ 中川李枝子作 福音館書店 978-4-8340-0734-3
 オバケだって、カゼをひく! ♡ 富安陽子作 ポプラ社 978-4-591-09029-9

こわい本

- くわすにようぼう ♡ 稲田和子再話 赤羽末吉画 福音館書店 978-4-8340-0789-3
 おしれのぼうけん ♡ ふるたたるひ作 たばたせいichi作 童心社 978-4-494-00606-9
 ひとりであらうしゃい 七つの怪談 ♡ 斎藤洋作 偕成社 978-4-03-540130-8
 えんの松原 ♡ 伊藤遊作 福音館書店 978-4-8340-1758-8
 冷たい心臓 ♡ ハウフ作 乾侑美子訳 福音館書店 978-4-8340-1780-9

へんしん

- ピロードうさぎ ㊦ ㊦ ウィリアムズ文 石井桃子訳 童話館出版 978-4-88750-036-5
 龍の子太郎 ㊦ ㊦ 松谷みよ子作 講談社 978-4-06-213534-4
 かいじゅうになった女の子 ㊦ ㊦ 末吉暁子作 偕成社 978-4-03-550750-5
 砂の妖精 ㊦ ㊦ ㊦ ネズビット作 石井桃子訳 福音館書店 978-4-8340-0542-4
 朝びらき丸東の海へ ㊦ ㊦ ㊦ ルイス作 瀬田貞二訳 岩波書店 978-4-00-115023-0

いろ

- あおくとときいろちゃん ㊦ レオー二作 藤田圭雄訳 至光社 978-4-7834-0000-4
 くれよんのはなし ㊦ フリーマン作 さいおんじさちこ訳 ほるぷ出版 978-4-593-50057-4
 はるどとむらさきのくれよん ㊦ ジョンソン作 岸田裕子訳 文化出版局 978-4-579-40245-8
 みどりいろの童話集 ㊦ ㊦ ラング再話 川端康成、野上彰訳 偕成社 978-4-03-551060-4
 みどりのゆび ㊦ ㊦ ㊦ ドリュオン作 安東次男訳 岩波書店 978-4-00-114101-6

かす

- 1ねん1くみ1ばんげんき ㊦ 後藤竜二作 ポプラ社 978-4-591-01993-1
 ウラパン・オコサ かすあそび ㊦ 谷川晃一作 童心社 978-4-494-00885-8
 十万本の矢 ㊦ ㊦ 唐亜明文 于大武絵 岩波書店 978-4-00-110636-7
 百まいのドレス ㊦ ㊦ エスティス作 石井桃子訳 岩波書店 978-4-00-115579-2
 海底二万海里 ㊦ ㊦ ㊦ ベルヌ作 清水正和訳 福音館書店 978-4-8340-0400-7

ことばあそび

- これはのみのびこ ㊦ 谷川俊太郎作 和田誠絵 サンリード 978-4-914985-01-1
 なぞなぞえほん 1のまき ㊦ 中川李枝子作 山脇百合子絵 福音館書店 978-4-8340-0741-1
 ぼうがーぼんあったとさ ㊦ よしだていいち編 しのはらよしと絵 らくだ出版 978-4-89777-045-1
 ことばあそびえほん ㊦ ㊦ 石津ひろ文 飯野和好絵 のら書店 978-4-931129-69-6
 どうぶつはいくあそび ㊦ ㊦ ㊦ きしだえりこ作 かたやまけん絵 のら書店 978-4-931129-67-2

詩

- おやすみなさいまたあした ㊦ 神沢利子詩 西巻茅子絵 のら書店 978-4-931129-61-0
 たいようのおなら ㊦ 灰谷健次郎ほか編 のら書店 978-4-931129-65-8
 だだずんじゃん ㊦ 川崎洋詩 和田誠絵 いそづぶ社 978-4-900963-15-3
 しゃべる詩あそび詩きこえる詩 ㊦ ㊦ はせみつこ編 富山房 978-4-572-00466-6
 おーいぼんた 声で読む日本の詩歌166 ㊦ ㊦ ㊦ 茨木のり子ほか編 福音館書店 978-4-8340-3469-1

さくいん (50音順)

㊦は読み聞かせに向く絵本 ㊦は、知識の本です。

あ	アーサーのくまちゃん	16	きょうりゅう大すき!	94
	あくたれラルフ ㊦	7	きょうりゅうのかいかた ㊦	92
	あたごの浦 ㊦	56	金のがちょうのほん	124
	アポウドリに夢中 ㊦	54	く いしんぼうのはなごさん ㊦	31
	あるきだした小さな木	87	草や木のまじゅつ ㊦	126
い	イギリスとアイルランドの昔話	33	くまの子ウーフ	27
	イグアナくんのおじゃまな毎日	71	クマのプーさん プー横町にたった家	29
	いたすらおばあさん	118	クマよ ㊦ ㊦	30
	いちねんせい	141	くらのやまの冒険	22
	いろいろへんないろのはじまり ㊦	123	グリーン・ノウのお客さま	17
う	宇宙探検 ㊦	84	ぐりとぐら ㊦	19
	ウナギのひみつ ㊦ ㊦	60	こ こいぬがうまれるよ ㊦ ㊦	6
	海辺のたから	95	こいぬとこねこはゆかいななま	9
え	絵で見るある町の歴史 ㊦	102	コウノトリと六人の子どもたち	131
お	お江戸はやくちことば	136	こきげんなライオン ㊦	38
	おおきくなりすぎたくま ㊦	28	こぎつねルーファスのぼうけん	76
	おおきなかしの木 ㊦	86	ことばあそびうた	137
	おさるとぼうしうり ㊦	15	ことばのこぼこ	138
	おぼけ ㊦	108	子どもに語るグリムの昔話2	64
	おぼけのジョージーおおてがら	105	ゴリラに会いに行こう ㊦	18
	おぼけのひっこし ㊦	104	こんぎつね	34
か	かえるの王さま	64	さ サツちゃん	140
	かえるのつなひき ㊦	62	サラシナ	100
	かしこいプタのロリポップ	70	サリーのこけももつみ ㊦	25
	風にのってきたメアリー・ポピンズ	82	さるのオズワルド ㊦	14
	かぞえうたのほん	134	三まいのお札	129
	家族になったスズメのチュン ㊦	72	さんまマーチ	58
	がたごとがたごと ㊦	103	し しあわせいっぱい狂にやってきたワニ	69
	火曜日のごちそうはヒキガエル	65	ジオジオのかんむり ㊦	37
	からすのカーさんへびたいじ	52	七わのからす ㊦	115
	がんばれひめねずみ ㊦	24	しりたがりやのちいさな魚のお話	55
	がんばれヘンリーくん	59	しろいぬ? しろいぬ?	2
き	木いちごつみ	139	紳士とオバケ氏	107
	木はいいなあ ㊦	85	そ そうの子ラウルとなかまたち ㊦	48
	吸血鬼の花よめ	112	そうのババール ㊦	45
	きょうりゅうが学校にやってきた	93	そうのマハギリ ㊦	44
	きょうりゅうくんとさんぽ ㊦	91	た 大千世界のなかまたち	111

太陽の木の枝	88	へムロック山のくま	26
たくさんのお月さま	75	変身 ①	120
たのしいゾウの大パーティ	46	ほ 冒険者たち	23
ダルメシアン	130	ほく字がかけるよ	20
ち 小さい牛追い	35	ほくじょうにきてね ②	36
小さいおばけ	106	ほしになったりゅうのきば ③	79
小さなスプーンおばさん	117	星の林に月の船	144
ちびっこカムのぼうけん	80	星のひとみ	81
ちょうちんまつり ④	97	ほんとうの空色	125
つ ついでにペロリ	129	ま まいごの小犬タップス	3
月 ⑤	78	またもりへ ⑥	43
月からきたトウヤヤー	77	松 ⑦ ⑧	90
つきのぼうや ⑨	73	マツの木の王子	89
壺の中 ⑩ ⑪	132	まぼろしの小さい犬	5
て てんぷらびりびり	143	まるかいてちゃん	133
と どうしてわかるきょうりゅうのすがた ⑫	96	まんげつによるまでまちなさい	74
どうながのプレッツェル ⑬	1	み ミス・マウンテン	113
時の旅人	101	みどりいろのたね ⑭	121
とぶ船	98	みにくいガチョウの子	53
トムは真夜中の庭で	99	耳なし芳一の話	114
どれみふぁけるろ	63	む ムーミン谷の彗星	83
トロールのばけものどり ⑮	50	め 名犬ラッシー	4
な ながいながいペンギンの話	51	めっきらもっきらどおんどん ⑯	109
なぞなぞ 100 このほん	135	も ももいろのきりん	122
“なんでもふたつ” さん	128	や 屋根うらべやにきた魚	57
に にんじゃあまがえる ⑰ ⑱	66	山のトムさん	11
ね ねずみ女房	21	ゆ ゆうれいフェルピンの話 ⑲	110
の のはらうた	142	幽霊を見た10の話	113
ノラネコの研究 ⑲	12	ゆかいなかえる ⑳	61
ノロウェイの黒ウシ	33	雪女・夏の日の夢	114
は はなのすきなうし ㉑	32	ら ライオン ㉒	42
ハンゴバルの象つかい	47	ライオンと歩いた少年	41
ひ ひとまねこざる ㉓	13	ライオンと魔女	40
100 まんびきのねこ ㉔	127	らいおんみどりの日ようび	39
ふ ふしぎなおたまじゃくし ㉕	67	り リトルベアー	119
ふゆねこさん ㉖	8	る ルドルフとイッパイアッテナ	10
へ べちゃんこスタンレー	116	ろ ロージーのおさんぽ ㉗	49
へびのクリクター ㉘	68	わ 和太郎さんと牛	34

先生方や子供の読書に関わる方へ

このブックリストでは、都立多摩図書館が選んだ小学生が楽しめる本をテーマ別に紹介しています。

- ・小学生のための冊子です。子供たちがこのリストから読みたい本を探したり、本への興味を育てることができます。
- ・動物や恐竜、変身など小学生が興味を持つテーマをそろえています。
- ・続編では、さらにいろいろなテーマを取り上げる予定です。
- ・この小冊子は、様々な場で活用できます。
- ・この小冊子の中の本1冊1冊に、請求記号や棚番号などを記入し、図書室や学級などに置くと、子供が探しやすくなります。
- ・先生方が授業などで、環境問題や天体の学習への導入や調べ学習に使えます。
- ・ブックトークや学習に対応した資料紹介に使えます。
- ・読み聞かせや朝の読書に本を選ぶときの参考になります。
- ・小冊子の中のテーマを使って本の展示をするなど、1箇所にとまどめて本を並べると、子どもの興味を引き出すことができます。
- ・是非ここに挙がっている本を購入して、図書室を充実させてください。
- ・テーマ別に紹介した6冊の中には購入できないものもありますが、「そのほかの本」はすべて、購入が可能です。（発行時点）
- ・現在購入可能な本には、ISBN（出版社名の後に付した978から始まる13桁の数字）を記載しました。

読書活動に活用するために、この小冊子を希望する学校は、都立多摩図書館までご相談ください。

東京都立多摩図書館児童青少年資料係では、
子供の本や読書についての
ご質問、ご相談をお受けしております。

いつでも気軽にご利用ください。



東京都立多摩図書館

電話 042-524-6428 (児童青少年資料係ダイヤルイン)

こどもページ <http://www.library.metro.tokyo.jp/c>

東京都子供読書活動推進資料 2008

ほん・本・ごほん 1

平成 21 年 (2009) 3 月 1 日発行

編集 東京都立多摩図書館

発行 東京都立多摩図書館

〒190-8543 立川市錦町 6-3-1

電話 042-524-6428

ファクシミリ 042-525-9168

